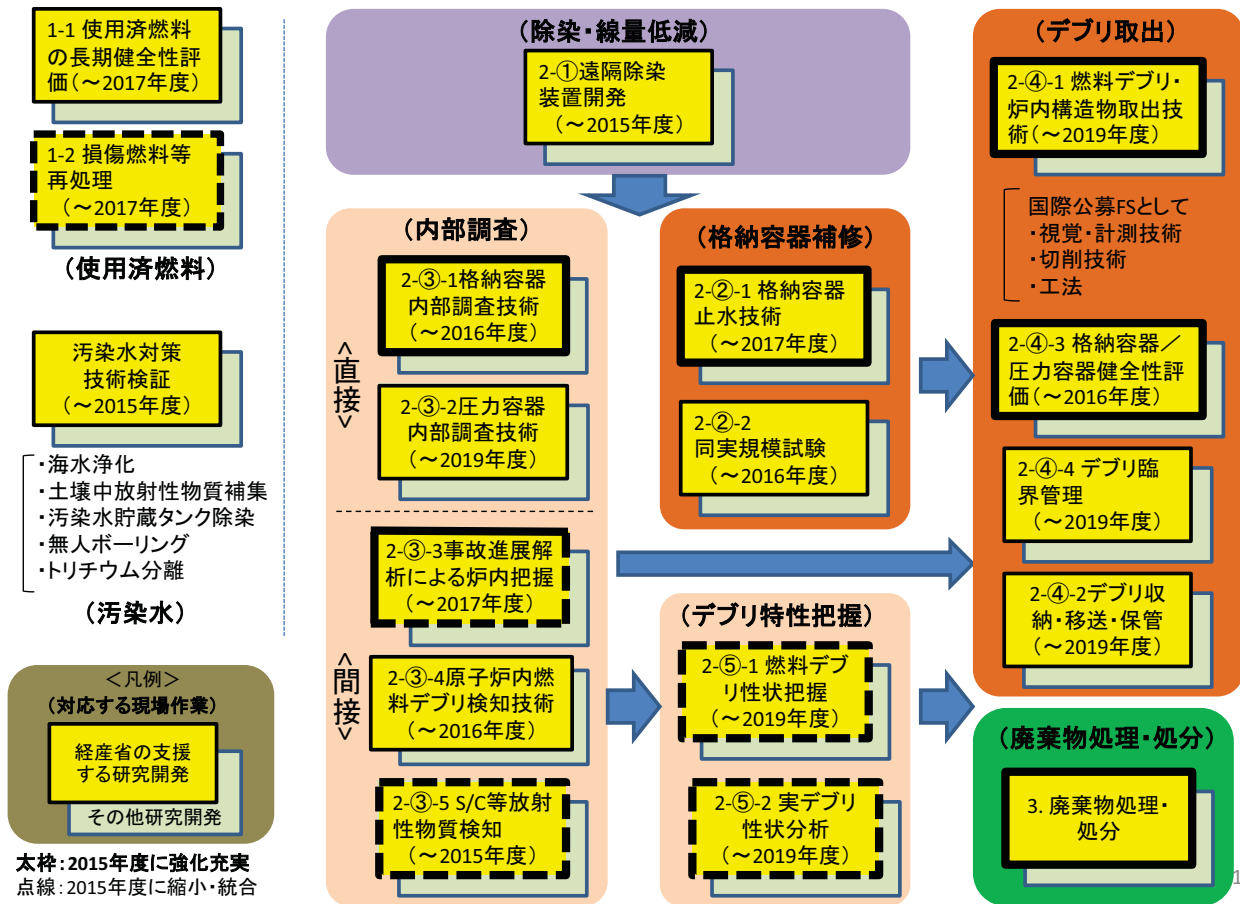


福島第一原発の廃炉・汚染水対策に係る研究開発等の全体構成図



平成26年度補正予算案 廃炉研究開発プロジェクト支援予算 (見直しのポイント)

■強化・充実するプロジェクト

<デブリ取り出し>

○「燃料デブリ・炉内構造物取出し技術」について、工法の方針決定に向けて、従来から進めてきた上部からの冠水工法に加え、側面からの取出しや気中取出しについても、装置の概念設計、要素試験を行う。その際、国際公募事業(RFP)によって得られた知見を踏まえることとする。

<止水>

○「格納容器止水技術」について、ベント管内埋設方法、サブレーションチャンバー(S/C)内充填方法、トラス室止水方法などの複数システムの成立性を見極めつつモックアップ試験を実施する。また、自動溶接やトラス室止水技術等、現行プロジェクトで対応できない場合には、新たに開発を行う。

<内部調査>

○「格納容器内部調査技術」について、デブリ取出し工法の方針決定に必要なより多くの情報を得るため、調査部位の追加、更なる調査計画の策定、開発項目の追加を行う。

○「事故進展解析による炉内状況把握」について、他の研究開発プロジェクトや現場から得られる情報等を踏まえ、燃料デブリの量、位置等を総合的に評価分析する。

<廃棄物>

○「事故廃棄物処理・処分技術」について、IAEAのレビューにてインベントリ評価を加速する指摘があり、性状把握に関して廃棄物試料の分析サンプル数を増加することで評価の加速を図る。また、廃棄物ストリームに関して物質収支と放射能収支の関連性を考慮した検討を追加する。

■縮小・統合するプロジェクト

○「使用済み燃料プールから取り出した損傷燃料等の処理方法の検討」について、使用済み燃料の処理・保管方法の決定に必要なデータが得られる見込みがたつたため、2014年度をもって中止する。

○「S/C等に堆積した放射性物質の非破壊検知技術」について、格納容器下部止水技術の動向を踏まえて開発判断を行うことから中止する。

○「実デブリ性状分析」と「燃料デブリ性状把握」について、一体的な管理が効果的であることから統合する。

○「事故進展解析による炉内状況把握」において実施していた実証試験について、事故解析コードの改良に効果的に役立つものに絞り込む。

○「格納容器漏えい箇所の特定技術」について、開発の対象部位の除染進展や他の補修技術の活用などから、開発のプライオリティが低くなったため中止する。